

埼玉の4大学合同プロジェクトで
「連携力」を身につけよう。



埼玉県立大学

埼玉医科大学

城西大学 薬学部

日本工業大学 工学部

彩の国 連携力 育成プロジェクト



大学間の連携による新しい教育プログラムがはじまっています。

彩の国 連携力 育成プロジェクト

これからの時代に必要なのは 連携力

今後ますます多様化・複雑化していく社会において、人々の暮らしや健康に関する課題解決も難しくなっていくことが予想されます。そのような社会で活躍するためには、学生時代どのような力を養えばいいのでしょうか。それは、地域で暮らす人々や他の専門職とつながり合う力、すなわち「連携力」であると、私たちは考えます。

そこで私たちは、それぞれの大学において専門性を養うと同時に、4つの大学が共同して専門職連携教育(Interprofessional Education:IPE)の科目開発を行い、「連携力」を高めるプロジェクトを進めています。

(平成24年度文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」選定取組)



彩の国連携科目の共同開発・共同開講

- ① ヒューマンケアの講義・体験
- ② IPWの基礎・演習
- ③ 地域におけるIPWの実践

大学間連携による教育開発

- 大学教職員の連携関係の構築
- 取組成果の広報と地域への還元

プロジェクトが目指す人物像



本プロジェクトでは、「連携力」を身につけた専門職の育成を目指しています。

(IPW=専門職連携実践)

彩の国連携科目

- ① ヒューマンケアの講義・体験

ヒューマンケア論

ヒューマンケア体験実習

- ② IPWの基礎・演習

IPW論

IPW演習

- ③ 地域におけるIPWの実践

IPW実習



地域住民の質の高い暮らしを実現するため、
多職種と連携しながら課題を発見・解決する力

ヒューマンケア

専門性

柔軟性

コミュニケーション

チーム形成

リフレクション(振り返り)

埼玉県立大学

プロジェクト代表校

「連携と統合」の学びを深め共生社会に貢献

本学は保健医療福祉領域で活躍する人材を育成する大学です。少人数教育による授業によって、質の高い専門的知識と技術を学べる環境があります。開学以来、多様な専門領域の学生同士が共に学ぶことを通じて、連携する力を養うための教育プログラムを発展させてきました。

現在では、1年生から4年生まで一貫して専門職連携を学ぶカリキュラムを整えており、これらは本プロジェクトの「彩の国連携科目」を構想する際のベースとなっています。

すべての人々の幸せのために
貢献できる援助者になりたい

学科

看護学科、理学療法学科、作業療法学科、
社会福祉子ども学科(社会福祉学専攻、福祉子ども学専攻)、健康開発学科(健康行動科学専攻、
検査技術科学専攻、口腔保健科学専攻)

輩出する専門職

看護師、保健師、助産師、理学療法士、作業療法士、
社会福祉士、精神保健福祉士、保育士、幼稚園教諭、
保健体育教員、養護教諭、健康運動指導士、実践健康教育士、
臨床検査技師、歯科衛生士、健康食品管理士



病気の治療とともに
人として患者に寄り添う
医療を提供したい



埼玉医科大学

優れた実地臨床医家の 育成を目指した教育

本学は地域医療を担う第一線病院に原点があり、患者中心の医療を実践できるすぐれた医療人の育成をめざした医学部、保健医療学部からなる医療系総合大学です。

医学部の期待する医療人像是、「高い倫理観と人間性の涵養」、「国際水準の医学・医療の実践」、「社会的視点に立った調和と協力」です。将来様々な職種の人々と協力し、それぞれの立場において指導的役割を果たすことができるようになるために、関連病院や地域の施設と連携協働して、優れた実地臨床医家の育成を目指した教育を行っています。

学科 医学部

輩出する専門職 医師

城西大学 薬学部

地域社会の人々の健康に寄与する人物へ

城西大学薬学部は、薬剤師養成課程の薬学科(6年制)、薬科学技術者を養成する薬科学科(4年制)、さらに管理栄養士養成課程の医療栄養学科を有しています。

本学部は『薬学部において学んだ者が、豊かな人間性と国際性および専門性を身につけ、地域社会の人々が主観的QOL(quality of life:生活と人生の質)を高く維持し健康のより良い状態を目指すこと(ヘルスプロモーション)を直接的・間接的に支援し、さらに、社会のグローバル化に適切に対応することによって、本学の建学の精神である「学問による人間形成」を実現する』ことを理念としています

学科 薬学科、薬科学科、医療栄養学科

輩出する専門職 薬剤師、管理栄養士、薬科学技術者

誰からも信頼される
薬剤師になりたいです



お年寄りが快適で
豊かに暮らせる住環境を
デザインしたいです



日本工業大学 工学部

現実社会の期待にこたえる工学技術者の育成

日本工業大学は、工学理論を積極的に現実社会に活用できる人材育成をめざす工業系の単科大学です。初年次から、実験・実習・製図などを通じて工学を学ぶ「実工学教育」によって、現場に直結した実践的な技術者・プロジェクトリーダーを養成することを教育の目的としています。

現在、本プロジェクトに中心となって参加している生活環境デザイン学科では、人や暮らしを見つめる視点を持ち、高齢者や障がい者を含む、誰にとっても心地よい生活空間を創造できるデザイナーの育成をめざしています。

学科 機械工学科、ものづくり環境学科、創造システム工学科、電気電子工学科、情報工学科、建築学科、生活環境デザイン学科

輩出する専門職 技術士、建築士、電気主任技術者、エネルギー管理士、環境計量士、公害防止管理者など、各分野の工学技術者

共に学び、共に感じ、共に創る。そんな経験が私たちの暮らしを支える

1

ヒューマンケアを学ぶ・体験する



ヒューマンケアの講義・体験

人をケアするってどういう事？

ヒューマンケア論

相手の思いに寄り添ってケアを提供することは、ケアの担い手である専門職の基礎であり、目指すべき到達点でもあります。各大学では、援助を要する人々やケアをとりまく諸問題の専門家による講義、大学間共通のビデオ教材等を活用した授業が行われています。学生は講義やゲストの語りを通してヒューマンケアの理念について学び、そのあり方を自ら考えます。



ヒューマンケア体験実習

学生は、保健医療福祉の実践現場に赴き、援助を必要とする人々や専門職と直接的に関わることによって、他者と関わる姿勢、多様な人間性や価値観を理解しようとする姿勢を中心に学びます。援助を必要とする人々の生活(過去・現在・未来)や思い、彼らを援助する専門職の思いや姿勢などを見て、触れて、感じて、連携・協働による支援において基盤となるヒューマンケアマインドを体験を通して学習します。

2

IPWの基礎と演習



IPW(専門職連携実践)の基礎・演習

一緒に学んで新鮮！

IPW論

学生は、患者・利用者中心の支援活動をチームで行うための基本的考え方とスキルを学びます。チームメンバー個人やその専門分野の特徴と多様性を理解しあうことの重要性を知り、チーム形成やリフレクションの理論と方法の学びを通してIPWの基盤となる知識を修得します。



IPW演習

事例を通し、当事者を尊重した課題解決を多職種混合チームで行う演習です。課題解決プロセスやチーム形成の深化に加え、葛藤と合意形成、リフレクションなど、IPWに必要な能力を体験的に修得します。また、“緩和医療”や“リハビリテーションと生活空間デザイン”という連携校ならではのテーマ設定、模擬患者の導入、住宅模型の活用など、様々な工夫が盛り込まれています。

4大学と地域との相互作用による、教育システムの構築

4つの大学教育が同じ目標を持ち、共同の科目を開発するには、お互いを深く知り、信頼関係を育み、具体的な取り組みを積み重ねていく必要があります。学生、教職員、そして地域の方々との対話の機会を数多く持ちながら、教育システムの構築をしています。

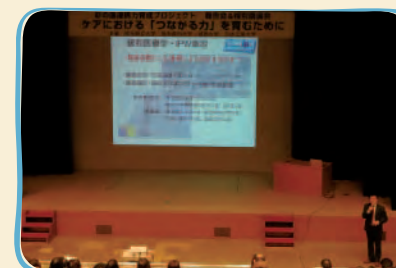
大学連携ワークショップ



学生による主体的共同学習機会の創出



取組成果の地域社会への還元



学会発表等を通じた
大学間連携教育に関する普及啓発



ニュースレター・Webサイトによる広報



大学教



「連携力」になります。

3

地域におけるIPW(専門職連携実践)の実習

IPW実習



ああ、これが連携なんだ!

IPW実習

学生は、保健医療福祉の実践現場に多職種混合チームで赴き、援助を必要とする人々や専門職等へのインタビューを通して、地域でのより良い生活のための提案をする課題に取り組みます。利用者・集団・地域の理解と課題の発見・解決のプロセス、多職種の相互理解のプロセス、チーム形成のプロセスを体験するとともに、チーム体験を振り返り、自らの今後の課題を見出します。



IPW実習のプロセス



そして、これからが本番!

職員の連携による事業の推進



IPW履修学生 インタビュー



日本工業大学 工学部
生活環境デザイン学科 2015年度卒
寺門 武寛さん

互いの専門分野の理解が大事!

専門分野が違う中で一つの目標に向けて活動するのはとても大変でした。実習を通じて、連携を行うためには、メンバーの専門分野を知ろうとし、自分の専門分野を再認識して情報を提供すること、そしてチーム全体が患者さんを理解し同じ目標を持つことが重要ではないかと思いました。

埼玉県立大学 保健医療福祉学部
社会福祉学科 2015年度卒
中澤 恵莉菜さん

これからの成長の大きな財産に

実際に患者さんの支援をチームで検討して、多くの課題と向き合いました。本人や家族のニーズに基づいた支援を考えないと、専門職チームによる押し付けになってしまうと感じました。社会に出る前にこのような経験ができたことは、これから成長していく上で、大きな財産になると思います。



埼玉医科大学 医学部
医学科 2015年度卒
金田 光平さん

ヒューマンケアを考えるきっかけに

2回のIPW実習、そしてワークショップ、講演会と沢山の事業に参加させていただきました。Saipelは学部も立場も異なる様々な方々とあるテーマについて議論する場でした。今まで気づけなかった視点や考え方を知る機会となり、ヒューマンケアについて考えるきっかけにもなりました。



プロジェクトメンバー

日本工業大学
勝木 祐仁 生活環境デザイン学科准教授

未知の可能性を感じるプロジェクト

工学やデザインの力で人の暮らしを支えたい。そう考えている学生が工学部にもたくさんいます。そんな学生が人の暮らしの多様さ、奥深さに触れ、自分の専門の意味に気づきます。人の人生と向き合い、学生が学び合うこのプロジェクトに未知の可能性を感じています。



城西大学 薬学部
医療栄養学科
2015年度卒
奥野 真由さん

楽しさと難しさを実感

とても楽しく有意義な実習でした。しかしそればかりではなく、チーム形成や多職種連携といった、大切だと言われている事ほど実現するのは難しいことを痛感しました。自分を見つめ直し、視野を広げる良い機会になりました。学生の今だからこそ見て、感じて、考えられることがきつとあります。



城西大学 薬学部
薬学科 2014年度卒
秩父市立病院 薬剤科勤務
橋本 緑さん

理想の医療者像ってなんだろう!?

実習では、自分がどのような薬剤師になりたいかを真剣に考えるきっかけになりました。まだまだ人の役に立てる薬剤師にはなれていませんが、病院内だけでなく、地域の人や介護領域で働く人達の役に立ちたいと思うのは実習での経験のおかげです。現在は、実習時の気持ちを忘れずに、薬局との連携会議や地域のケアワーカーの方々の勉強会に積極的に参加して、意見交換や薬についてのアドバイス等をさせていただいています。



施設ファシリテータ

鶴ヶ島在宅医療診療所 副院長
齋木 実 医師

様々な経験がケアの幅を広げる

医学は「エビデンスの学問」なので、医療の世界の「大海」で、徹底的に「治す医療」も経験してほしい。一方で在宅医療は、その人の生活に想いが馳せられる人であることが大事。大学間連携教育も含め、様々な経験を経ることにより、在宅におけるケアの幅が広がると思います。



<http://www.saipe.jp>



埼玉県立大学

〒343-8540 埼玉県越谷市三野宮 820
TEL.048-971-0500



埼玉医科大学

〒3350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38
TEL.049-276-1168



城西大学 薬学部

〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台 1-1
TEL.049-271-7729



日本工業大学 工学部

〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台 4-1
TEL.0480-34-4111